

津波調査 2011 体験談

今回の津波調査の自由回答に寄せられた体験談です。ほぼ原文のまま掲載しています。

■災害支援・職務に従事していて逃げ遅れた

・消防団員だった兄弟が亡くなりました。消防団での救助活動中、津波にのまれた浪板観光ホテルの従業員を救助しようとして、自分も津波にのまれてしまった。(亡くなった方：岩手県上閉伊郡大槌町 30代男性)

・地区消防団員でした。水門閉めに行ったんです。その水門、跡形もないのに。あの津波の前にはなんの意味もない水門、命と引き換えに閉めにいった。(亡くなった方：岩手県陸前高田市 30代男性)

・近所に避難を呼びかけていて、自分は避難できなかった。(亡くなった方：宮城県石巻市 60代男性)

・お年寄りや子供達の避難誘導をしていた為。直ぐに車で高台へ避難した方は助かったので、そうしていれば助かっていた。(亡くなった方：宮城県石巻市 50代女性)

・親戚の女性が亡くなった。自分以外の住民を逃がすことに一生懸命だった。(亡くなった方：宮城県石巻市 70代女性)

・友人が亡くなった。飲食店なのでお客様を優先させ、自分たちは逃げなかった。(亡くなった方：宮城県多賀城市 20代女性)

・停電と携帯充電切れていて情報が一切なく、また近所の様子をうかがっても誰ひとり避難について知らないのととりあえず消防などが巡回してくるのか待った。学校に子供を迎えに行ったのが1時間弱、後に避難所になる学校なのに、津波の情報避難の指示なく帰された。帰り道のコンビニで食料確保に1時間待ち。そこまでで2時間たっていた。コンビニに若い女性が駆け込み、「えー！名取とかに大きい津波くるのになにやってるのー？」と少し大きめな声で言っていたのが聞こえた。ただ、危機感がみんなには弱かった。海から7、8キロ位離れていたし、名取や閑上(ゆりあげ)は近いけど近所じゃないといった感覚があった。今思うと、ワンセグでテレビ見ていた人もいると思うのに、誰もその話はしていない。助かったのは、高速道路と決壊しなかった川の堤防のお陰です。隣の小学校付近1キロ半ほど海よりまでは津波がきています。この建造物なければここもだめでした。実母の

入所していたホームのスタッフさんが亡くなりました。ピストン避難輸送の最後の輸送のために危険な場所に戻った。一人二人の入所の方が避難に同意するのに時間かかったみたいです。

(宮城県仙台市若林区上飯田 40代女性／亡くなった方:宮城県仙台若林区荒浜 40代女性)

・家に帰るより、その場の被害を考えて留まった。下手に動かなくてよかった。車を出していたら流されていたと思う。病院の先生が亡くなった。一旦避難したが移動した。移動した理由は、1. 電話で助けによばれた。2. 鎖に繋がれた犬を助けに。3. 避難前マニュアルの仕事をしてした。4. 目の前で人が流されたのを助けようとした。内海の反対の外洋から津波が来た。道路は混んで、動かなかった。(宮城県宮城郡松島町 20代女性／亡くなった方:宮城県東松島市 50代男性)

・雨戸を閉めていて避難しなかった。いつもの津波 10~20cmだと思ったのではないか？
(亡くなった方:福島県いわき市 60代女性)

・自治体職員。海沿いの住民の方へ避難を広報車で呼び掛けていたから避難できなかった。
(亡くなった方:宮城県亶理郡山元町 30代男性)

・消防団員で水門を閉めないとならないと避難できなかった。(亡くなった方:岩手県下閉伊郡田野畑村 30代男性)

■家族を助けに行き逃げ遅れた

・会社から自宅に家族の安全を確認に行きそのまま津波に。(亡くなった方:福島県いわき市豊間 30代男性)

・学校から帰って来るだろう孫を、自宅で待ち続けていた。一度は2階に避難したが、窓や玄関の鍵をかけてから2階に上がろうとしていた祖母が、窓から勢いよく入ってきた津波に自宅内で流され、溺れているのを助けに向かった。(亡くなった方:宮城県亶理郡山元町 70代男性)

・怖くて泣いている私を上司が我に返してくれ、早くあそこに避難しろと指示してくれたおかげだと思う。ヘルパーをしていた友人が亡くなった。家族がみな病気で友達も怖くてすぐには動けなかったんだと思う。自宅から逃げられなかったみたいだから。(宮城県塩釜市新浜町 20代女性／亡くなった方:東松島市下立沼 20代女性)

・子供の担任教師。学校に残ってれば生きてたのですが…地震直後自宅の家族が心配にな

り閉上に車で向かった。大津波警報は知っていたと思うがやはり家族が心配で戻ったから。
(亡くなった方：宮城県名取市閉上 40代女性)

・空港近くのエアリ（ショッピングセンター）に買い物に行き、地震。その後、閉上の両親を避難させようと車で迎えに行き、流された。両親を車に乗せている最中に津波が背後にあり、車を切り返して動きだした時には波に呑まれた。一緒に車に居たのは、60代の両親と、13才の娘。娘さんは未だに行方不明。車の後ろに波が見えたお婆さんは、とっさに走って、逃げて命が助かりました。(亡くなった方：宮城県名取市閉上 30代女性とその家族)

・勤務先から家族を助けに家へ向かい避難しようとした矢先だったようです。(亡くなった方：岩手県大槌町 50代男性)

・きっとペットを助ける為に家に行って高台に逃げるつもりが、途中で私達家族の元に行こうと方向を変えたのが津波にのまれたのではないかと思います。(亡くなった方：岩手県下閉伊郡山田町豊間根 60代男性)

・会社の避難指示が早く適切だったから助かった。友人は、具合が悪くて学校を休んでいた子供のことが心配で地震発生直後家に向かった。(宮城県多賀城市 40代女性/亡くなった方：宮城県多賀城市 30代女性)

・友人が亡くなりました。海沿いの自宅にいる親を迎えに戻りました。(亡くなった方：福島県いわき市 20代女性)

・母親が津波に巻き込まれ、木に掴まっている事がわかったから、助けに行った。津波の第2波に巻き込まれたようだ。(亡くなった方：福島県南相馬市 60代女性)

・津波は来ないと思っていたけど、人に促されて逃げた。警官が誘導してくれた。ただ、誘導してくれた警官は津波に流され亡くなってしまった。近所の男性は、一旦、安全な避難場所に逃げたが、家族を探しに再び危険な場所に戻って亡くなった。(宮城県仙台市若林区 30代女性/亡くなった方：宮城県仙台市若林区 60代男性)

■情報をとれず、逃げられなかった

・いつもなら大したことない津波でも警報が出ていたのに、そのときは警報が鳴らなかったから。地震によって故障したのではないか？(亡くなった方：宮城県石巻市 60代男性)

・町の防災サイレンが地震で故障していて、津波に関する放送が流れなかった。まさかあんな大津波が来るなんて予想もできなかったと思う。(亡くなった方：宮城県亘理郡山元町 20 代女性)

・停電で情報が全く無かったらしい。(亡くなった方：宮城県気仙沼市 20 代女性)

・防災無線が鳴らなかったそうです。(亡くなった方：宮城県石巻市 70 代女性)

・大船渡に引っ越したばかりだったので、どうしたらいいか分からなかったんだと思う。(亡くなった方：岩手県大船渡市 30 代女性)

・地元ではなかった為避難場所などがわからないため、どこから波が来るのかも推定出来なかったと思われる(亡くなった方：宮城県石巻市 20 代女性)

・避難指示がなかったなので、安心していらしい。(亡くなった方：宮城県名取市 40 代男性)

・津波情報が解らなかったと思いますし、想定外で避難しなかったと思います。ここまで津波が来ないと思ったからだと思いますし、的確な情報と避難誘導が無かった為だと推測します。(亡くなった方：宮城県名取市 40 代女性)

■物を探していて逃げ遅れた

・持病の薬と保険証を取りに行く為、自宅に戻ってしまった。1度目の津波には助かったが、2度津波が来るとは思わなかった為、再び家へもどらなければ助かった。(亡くなった方：宮城県石巻市 70 代男性)

・父親が海近くで仕事していて、大きく水がひいていくのを確認したらしく、それを聞いた為すぐに対応出来たから助かった。祖母は、翌日が親戚の結婚式だった為、床屋に行っていた。家に帰ってきたが、貴重品を探していて、逃げ遅れて水にのまれて自宅の1階で死亡した。(宮城県石巻市 未成年男性/亡くなった方：宮城県石巻市 60 代女性)

・一旦安全な場所に逃げたが、貴重品を取りに自宅に戻ってしまった。(亡くなった方：宮城県気仙沼市 70 代女性)

■ 渋滞など交通障害で逃げ遅れた

・ 保育所の子供達を避難させれば自分も避難できると思っていたのだろう。遮断機の誤作動による渋滞があったとも噂がある。(亡くなった方：宮城県気仙沼市 60代男性)

・ 大曲地区は 避難するには 橋が二カ所 道路も二カ所 避難所まで行き着けずに 津波にのまれた方々が沢山いた。(亡くなった方：宮城県東松島市 60代女性)

・ 避難し出したのが遅く、しかも渋滞に巻き込まれ、直後津波が襲ってきた。(亡くなった方：宮城県東松島市 60代女性)

・ 友人が亡くなりました。港や海水浴場に囲まれた地域ではありますが、すぐ近くにあるわけでは無かったので、津波の危機をあまり感じず、様子を見ていました。逃げ遅れた上に、車で逃げた為、あちこちに陥没した道路が道を阻み、進めなかった。(亡くなった方：宮城県多賀城市 60代男性)

・ 夫婦で車で避難途中に車ごと津波にのまれ、奥さんのシートベルトがはずれず、旦那さんだけ助かった。(亡くなった方：宮城県仙台市宮城野区 50代女性)

・ 車での避難で、渋滞で身動き取れず車ごと津波に飲まれたみたいです。(亡くなった方：宮城県仙台市宮城野区蒲生 30代男性)

・ 渋滞に巻き込まれないルート、直ぐに高台に上がれるルートを通り避難行動をした。友人は避難経路の渋滞や高台までの距離がありすぎ間に合わなかった。(気仙沼市 20代男性／亡くなった方：宮城県気仙沼市 30代男性)

・ みんな避けて通らなかったトンネルを通過して帰ったら渋滞に巻き込まれた時間が短くてすんだから。職場の同僚が亡くなった。自宅近くで見つかったので家に戻ろうとしていたと思う。ただ渋滞で遅くなってしまったので巻き込まれてしまったのかと。(宮城県石巻市 30代女性／亡くなった方：宮城県石巻市 60代男性)

■ 油断して逃げ遅れた

・ 避難指示もなく、テレビ等からの情報もありませんでしたが、それでも一応避難したのが良かったと思います。親戚が亡くなりました。その方だけでなく避難しなかった方は、津波が来る地域で以前津波を経験した方が多かったようです。前は少し家を濡らす程度だったから、今回もそうだろうと思って逃げなかった方が沢山亡くなりました。また避難警報が出なかったり停電で情報が入らなかったのも大きな原因だと思います(宮城県石巻

市 20代女性／亡くなった方：宮城県石巻市 60代女性)

・町で、津波警報がでたときが何度か過去にあったが数cmなどで、町まで飲み込むことな
んかなかったから安心してたと思う。(亡くなった方：千葉県旭市飯岡町 60代女性)

・沿岸付近在中だったが、津波が来た方向が、家から見える海辺とは全然違う方向から津
波が来ていて気付かず、逃げようと玄関を出た時にさらわれた。(亡くなった方：宮城県気
仙沼市 未成年女性)

・津波の認識が確実に低かったと思う。準備はしていなかった。(亡くなった方：福島県い
わき市 70代女性)

・一旦波が引いたので、大丈夫と思ったのではないかと思います。(亡くなった方：宮城
県気仙沼市 40代女性)

・チリ津波はその場所までこなかった安心感。予想外の高い津波。(亡くなった方：宮城県
女川町 未成年男性)

・過去の津波では、そこに来た事が無かったから。指定避難場所には避難したが、そこさ
えも流された。(亡くなった方：宮城県南三陸町 60代男性)

・避難した場所が海岸側ではなかったのでもうそこまで来るとは思わなかったのでは。(亡くな
った方：岩手県釜石市 30代女性)

・年老いた両親を銚子の親戚宅に避難させ、一度自宅に戻った。青果店で頼まれていた品
物を車に積んでいたらしい。そこまでたいしたことがないと甘く考えていたかも知れない。
最初、奥さんが波に流されて、それを旦那さんがたすけようとして…。(亡くなった方：千
葉県旭市 60代男性)

■避難行動が間に合わなかった

・地震発生後、身内から安否確認の電話が連続してきていて、その対応していた。(亡くな
った方：宮城県東松島市 70代女性)

・津波が、くることは、理解していたが、家族で一人自分自身の判断で、自宅に残った。(亡
くなった方：宮城県気仙沼市 70代男性)

・亡くなった方の会社の同僚の方で同じ現場で仕事の中で大津波の直前まで津波に気付かずに仕事をしていたそうですが、港湾関係で仕事する際は救命胴衣を着用して作業をすると言うのが鉄則なのですが、亡くなった方は動きづらいという理由で救命胴衣を着用して無かったので、それが生死を分けたようです。(亡くなった方：宮城県石巻市 40代男性)

■安全な場所に避難できなかった

・友人が亡くなりました。漁村なので海沿いにいたらしいです。ラジオからの情報は全て間違いで、最初はそれを信じていたのですが、長年その漁村に住んでいるお年寄りの方々が様子がおかしいと言いはじめたので避難したらしいです。避難場所など意味がなく、漁村すべてが津波とそのあとにおこった火災で全滅したので逃げ場がありませんでした。その他、同級生数名、親戚、友人が多数亡くなりました。未だに安否不明の友人も数名おります。(岩手県下閉伊郡山田町 未成年女性)

・病院に勤めていた友人が亡くなりました。避難先の小学校も低い位置で、患者さんも一緒、悩んだすえに避難が遅れたような形跡がある。(亡くなった方：宮城県東松島市 20代女性)

・そもそも街が壊滅です。山側に家がある人じゃない限り…みんな流されました。(亡くなった方：岩手県陸前高田市 40代女性)

□生存者の体験

・一度逃げた避難所の高さは6メートルの高台。津波メール(ウェザーニュース)が届き、確認したら7メートルと書かれており危ないと思ってもっと遠くへもっと高い場所と思い行動した。そのあと防波堤突破された。今いる場所(第一避難所)が津波にのみれると思い逃げた。のちに第一避難所はのみれた。津波が早かったから逃げられなかった。人に手を貸してのみれたり、家族を助けたくてのみれたり、子供が居てうまく走れなくてのみれた人たちが居た。もっと早く的確な指示が欲しかった。そしたらもっと助かった。電気もダメ、携帯も使えない中、情報がカーナビ、防災無線、ワンセグしか無かった。私はウェザーニュースの津波と地震アラームかけてたから、メールが届き、情報は見れた。メールがなかったら第一避難所で死んでたと思う。私と友達走って逃げた。津波に右から追い抜かれた。そのあと左から覆い被さるように津波が来た。一気に200人ぐらいのみれた。私は300メートルぐらい流されたが山にぶつかり、木に捕まり、助かった。友達ははぐれてしまい、遺体で見つかった。(岩手県陸前高田市高田町 20代女性)

・いったん高台のホテルの駐車場に逃げたが、大きい余震のため建物や駐車場等崩壊する気がしたため、別の場所に移動した。避難開始が早かったから助かった。過去の教訓と親

から言い伝えられた「津波てんでんこ」を守った。(岩手県宮古市港町 60代男性)

・自動車ではなく自転車で逃げたから助かったと思う。(宮城県石巻市 30代男性)

・父親がラジオを聞いていて津波が来ると強く大声で避難すると言って無理矢理、車に乗せられて逃げた。父親のおかげで助かった。近所の女性は、津波はこないと思ってたらしく、海を見に行ったり、外で何人かで話してたりしてたそうです。(福島県相馬市 30代女性／亡くなった方：福島県相馬市 60代女性)

・自分のいる場所は安全だと思っていたし、逃げ道もわからなかった。ただ、たまたま高速道路が堤防変わりになり、波が来なかったため助かっただけ。(宮城県仙台市若林区 20代女性)

・長く異常な揺れだったし、海沿い、川沿いなので、絶対津波が来ると判断した。ただあれほどの津波が来るとは思わなかった。息子(小6)の学校へ、母・甥・私の3人で貴重品・バスタオルなど持って避難した。平地の学校なので、決して安全とはいえない場所だったが、そこから車等で移動するのはもっと危険と思いそこにいた。(宮城県気仙沼市 40代女性)

・地震発生直後、裸足で飛び出した。靴と厚手の上着を取りに家に入り、すぐに避難した。大きな地震だったし津波が絶対来ると思って逃げた。先人の教え、常日頃から地震の後には津波がくると子供の頃から叩き込まれて育ってきているので、すぐ逃げる事ができた。(岩手県大船渡市 30代女性)

・ここまでは、まさかこないだろうという考えで避難場所ではなく自宅に帰った。たまたま200m先で津波が止まっていただけ。もう一波来たらのまれていたと思う。情報も無いので、たった数百メートル先まで波が来ているのもわからないし、壊滅的な被害など想像できなかった。知り合いの男性は、避難しようとしていて家族と外で話していたら、津波にのまれた。(宮城県石巻市 20代女性／亡くなった方：宮城県東松島市 60代男性)

・避難所までの道路が津波で浸水し、避難所に行く事が出来なかった。私の家は、ギリギリ津波が来なかったが、5メートル先は水害で被害大だった。家の中を見て、パニックになったが、子供がいたので、落ち着こうと自分に言い聞かせ、それから片付けをし(逃げ道確保のみ)学校にいた子供達を迎えに行った。あちらこちら通れない道ばかりで、下の子連れ、学校までの道を遠回りし、瓦礫の上や水溜まりを歩きながら迎えに行った。家に着く頃には、真っ暗で家にある物を子供達に食べさせ、服を何枚も着せて布団の中に

いさせました。仕事中の主人とは連絡が付かず、やっと送れたメールにこちらは大丈夫、心配しないで仕事頑張ると入れた。会社の方達の中で、私達だけだったようで夜9時過ぎに帰って来ました。道が通れない、渋滞で大変だったと言っていました。避難所にもしずくに向かっていたら、水害にあっていたと思う。子供がいて、中々身動きが取れなかったのが逆に良かったのでは？と思います。近所の方達は、車で行こうと道路に出たらゴォ～って言う音にビックリして急いでUターンしたそうです。(茨城県那珂郡東海村 20代女性)

・隣人から津波の知らせを聞いて、津波を見たので避難した。飲まれそうな間近で津波を見た。(宮城県東松島市 40代女性)

・仙台空港隣の新工事現場に300人の社員がいたので、会社に戻り、津波の避難を指示した。大きな地震だったので、絶対津波が来ると思った。現場の建物が、今年の3月に出来たばかりで、海に垂直に建っていたため、一階が津波の抜け道になり、2階は被害なしで済んだ。3月に出来たばかりの新工事現場のパートさんが数名亡くなりました。(宮城県岩沼市 50代男性/亡くなった方：宮城県名取市周辺 主に40代女性)

・当時、仙台空港にいた。津波は来ないと思っていたが、間近まで迫ってきた。避難後、暫く津波は来なかったが、避難場所に留まっていたため、助かったと思う。(宮城県名取市 40代男性)

・近所の人に声をかけてもらえたから避難できた。(宮城県名取市 30代女性)

・家族は片づけをしつつ、自分は土手の上で津波が上がったり下がったりするのを暗くなるまでみていた。理由はこの土手がいつ壊れるか不安だったから。あの日、暗くなってから下水溝から水が溢れ、車が走れる限界の位置まで見張っていて、夜の7時過ぎには無理だと判断して、しばらく帰れないと思い、車に布団やライトなど、車へ詰めるだけ詰めて避難場所に行った。水の上がり具合を常に見ていて、夜中の1時過ぎには開北小学校から出られない状態でした。(宮城県石巻市 30代男性)

・仙台空港の近く、岩沼市臨空工業団地内(津波で浸水した場所)にいた。大きな地震だったから、地震が起きたら津波が来ると思い、避難して助かった。(宮城県岩沼市 30代男性)

・家族が心配で車で家に向かおうとしていました。渋滞で車が動かなくなってしまう、近くの川が増水し道路に水が流れ込み、車が水没してしまいました。近くに警察署があって、

警察の方が、警察署の中に避難して下さいって叫んでいるのに気づいたから避難して助かりました。(福島県いわき市 20代女性)

・出勤する時に地震に遭った。去年も地震で小さい津波があったので、津波が来ると思い、魚市場の近くの会社に向かわず避難した。(宮城県気仙沼市 30代男性)

・大きな地震だったので、絶対津波が来ると思ってすぐ避難して助かった。日頃からの避難訓練。親からの津波の話しを聞いていたから。地域の防災意識の強さ。(岩手県大船渡市 40代女性)

・仕事場は海の近くだったが、仕事場の裏に大きな岩の様なものがあったのでのみこまれなかった。(福島県南相馬市 未成年女性)

・津波は来ないと思っていたけど、人から大津波警報の事を聞いて避難した。高速道路があったから助かった。もう少し海に近いと全てアウトでした。(宮城県仙台市若林区 40代女性)

・津波は来ないと思っていたけど避難した。大きい地震の時は直ぐに逃げる様にしてるから。(岩手県大船渡市 40代女性)

・避難して戻らなかったから助かったのかもしれない。(茨城県高萩市 30代女性)

・高台から津波を見た。避難する際、海沿いを走らなかったから助かったと思う。(宮城県亶理郡亶理町 20代女性)

・海岸近くにいた。津波は来ないと思いながら逃げたが、津波に飲まれそうな間近で津波を見た。とにかく山をめざした。(宮城県亶理郡亶理町 40代女性)

・津波が見えたので逃げた。渋滞のため車を乗り捨てたから助かったと思う。(宮城県石巻市 40代女性)

・海岸から200mの川のそばの勤務先にいた。平常心ではなく恐怖心だった。大津波警報を知って避難した。後20分遅ければ死んでいたと思う。(宮城県岩沼市 50代男性)

・浸水した場所にいた。手を貸してくれる人がいて助かった。(石巻市渡波 30代女性)

・車を使わず徒歩で避難したので、助かったと思う。(宮城県石巻市 30代女性)

・浸水した場所にいた。大津波警報が出たのですぐに逃げた。避難が早かったのが助かった。平野部なので東部道路がなかったら津波の勢いは弱まらずに自宅まで届いたと思います。(宮城県仙台市若林区 50代男性)

・下水から逆流して溢れた水で道路が冠水した。仙台港の工場や高速道路が防波堤のような役割をしたと思う。それがなければ、自分の家も津波は来ていたと思う。(宮城県多賀城市 20代男性)

・浸水したフロアにいたが避難できた。去年のチリ地震の津波である程度避難の段取り等がわかっていたから？(宮城県仙台市宮城野区中野出花 30代女性)

・あと5分避難移動開始が遅かったら、車ごと流されたと思います。(岩手県大船渡市 40代女性)

・津波が見えてから、裏山に登って下を見たときには、一階部分は、すっぽり水が上がって居たので無我夢中で登りました。娘が妊婦で子供三人でしたので、時間がかかり、ダメだと思いました。(宮城県東松島市 40代女性)

・実家が避難場所に近くガス元は閉めたのですが、プロパンガスが倒れていたままでガス管が曲がったのが気になったまま避難してしまい…ガス漏れして火事が発生しないかと心配で、同級生の大工がたまたまの外壁直しに来て一緒に避難してたので一緒に確認しに戻りました。亡き父親が毎日釣りばかり。小さな頃から大好きでくっついて行き、父親に津波や海の怖さの知識を前もって教えられ少しでも知っていたから。ウェザーニュースの津波のカテゴリを毎回 check して居たからだと思います。(福島県いわき市 30代女性)

・生後22日の娘に授乳して、自分も一緒に寝ていた。地震直後、ライフラインはすべて止まって、携帯も繋がりにくくなっていたのに、夫(航空自衛隊に勤めている)から電話があり、「基地に水が入ってきているので早く逃げろ」と。それがなかったら、子供と車に避難していたから、車ごと津波に流されていたかもしれません。(宮城県東松島市矢本 30代女性)

・避難開始が早かったから助かった。車を使って避難したことがベストだったかわからない。高台や郊外住宅地への幹線道はすでに渋滞しており、にっちもさっちもいかない状態で波にのまれ、車から出られず…という方々も沢山いた。まさに私が数十分前に通り過ぎ

たその場所で。(宮城県気仙沼市幸町 40代女性)

・仕事で自宅を離れていた。恐怖で身動きができなかったが、人に促されて避難した。翌日家に行ったら全部津波にやられて、なにも無くなっていた。(茨城県北茨城市関南町 50代女性)

・小学校に娘を迎えに行き、そこが避難所だったからそのまま小学校で様子を見ていましたが、そこにも津波が押し寄せてきました。すぐ裏が高台になっていたので、みんなで上に逃げて助かりました。町で買い物などしていたら、車は渋滞にはまり走って逃げても高い場所などもなく小さな子供もいたので、多分津波にのまれていたと思います。(岩手県陸前高田市高田町 30代女性)

・仙台新港の職場にいた。地震後の行動について、上司からの支持を待ったが、なかなか出されなかった。最終的には人に促されて避難した。津波は来ないと思っていたが、津波に飲まれそうな場所を見た。一人の判断じゃなかったから助かった。(仙台市宮城野区 20代女性)

・救急車がきて道を確保するため、避難してくる車の誘導をしに外にでていた。津波は聞いていたが、大津波は聞いていなかった。いつもの50cmだと思っていた。外に出ていた時、聞いた事のない音がした。避難の若い方がいて、音を聞いて一緒に津波と判断して逃げた。(東松島市 40代女性)

・地震で家具等が倒れ、外に出られなかった。玄関までの通路を確保する前に津波が来た。玄関も下駄箱等が倒れ、直ぐに外に出られる状態ではありませんでした。壁にしっかりと固定されていた洗面化粧台や台所の流し台も壁から剥がれてしまうほどの揺れで、家具の固定は役に立たなかった。家具が倒れたり物が散乱していて、家から脱出できず。散らかっているなか、貴重品や家と車の鍵をさがしたりしているうちに、外に出る前に津波が来た。(宮城県多賀城市 40代女性)

・指定避難場所の方が危険だったことと、その危険と同時に、安全な別の指定避難場所への移動という2度手間を予測し、避難者のさらなる移動による疲労と、避難者のパニックの巻き添えで行動がますます制限されると考えた。夕間も迫り、幼児連れで避難所に泊まることでの、自他のストレスの負担も予想したため。水位の上昇スピードから津波の規模を想定し、1階を犠牲にしても2階に留まるほうが安全だとも思えた。(宮城県東松島市 30代男性)

・港が拡張されたが、海からの距離が以前よりもかなり近くなっていることを知らなかった。神栖市のハザードMapを見ても平地ばかりで高い建物など無く、逃げ場はなかった。その上、自宅の避難指定場所はさらに港に近い小学校でさらに2階建て。体育館も屋上はないし、2階以上の高さで避難できる場所はなかった。2キロ先のホテルに逃げ込んだ方もいたらしいが、避難場所ではないと門前払いされたという。行政が市民の安全も考えずに拡張した港のせいで地形が変わり、その港の部分から大量の海水がなだれ込む形で起きた。神栖市、鹿嶋市の津波のように人災で起きた物なので、私たちにはなすすべもなかった。(茨城県神栖市 40代女性)

・私は、老人ホームで働いていて地震直後大津波警報が発令してから、利用者さんを避難場所へ移動するため誘導してました。第一陣の車椅子の方を乗せた車が先に移動したとき3時10分過ぎていました。その後から外の異変に気づき、海の方から黒い津波が押し寄せてきた。余りにも早すぎて寝たっきりの利用者さんは避難場所に間に合わなかった。職員と利用者さんは、津波に飲み込まれました。(宮城県東松島市 20代男性)

・停電で無情報。情報の伝達が非常に悪かった。津波警報と言われても空振りばかりだったので信頼してなかった。1~2mの津波が来ているのに「警報が発令されています。」と言う非常放送に腹が立った。津波が来たぞと言えば逃げた。(宮城県塩釜市 60代男性)

・地震と同時に、すぐに停電になり、津波が起きてる事も知らなかった。用水路から水が逆流して家の前の畑が浸水したが、津波でそうになっているとは思わなかった。(宮城県多賀城市 30代主婦)

・テレビは停電のため、携帯は基地局が壊れ使えず。また、ラジオは持っていなかったため津波の情報が入ってこなかった。加えて、消防や警察からの避難指示も無かったので今居る場所は安全なんだと思った。水や食料、水を入れるタンクなどの買い出しに行った。また、携帯は基地局が壊れ数日間使えなかったので安否確認は全くできなかった。(仙台市宮城野区 30代女性)

・大きな揺れと揺れの長さで、ただ事では無いと思いペットを連れ周りに建物が無い空き地へ避難しました。津波の事は考えていませんでした…きたとしても、いつもの事のように考えてました。(岩手県上閉伊郡大槌町 50代女性)

・仕事場が7階までのビルですが、2階で同僚が上がって来るのを待っていた。同僚は1階で(病院なので)薬や書類等を集めていた。私は直ぐ上の階に避難したかったが、周りの上司や同僚は、「そんなに高く津波がこないだろうから、ここで待ちましょう」と言うの

で、かなり不安でした。自分は、直ぐに危険を感じたが、動けなかった。(宮城県気仙沼市 50代女性)

・自宅でパソコンしていたのですが、席を立ち、ちょうど 警報メールがきたときはトイレでした。同時に強烈な揺れにパソコンデスクに、しがみついている他なかったです。沿岸部から約五キロ離れた新築住宅が立ち並ぶ新興住宅地域で津波は来ない安全地帯と聞いたから住み始めた。まだ新しい街で、避難場所さえ周知なく、サイレンも鳴らないし、警戒の広報アナウンスも無かった。揺れから約1時間後に大津波が襲って私は孤立した。もっと早くに警報なりサイレンなりあれば、逃げる事ができたのに、悔しい。改善点として街には要望したい。近隣の方々が閉じ込められたり、ケガしていないか、戸別にドアを叩き呼び掛けました。そして、通りに出てみたら、赤ちゃんを抱いてる方々が、泣いていたので、お湯や、水を、ありったけ渡したりしていました。携帯はメールが一度だけ繋がって家族に安否メールしました。外に出て、水を配っているとき、一台の車が見えたので、呼び止めてラジオを聞かせてもらいました。仙台空港に津波が入ってきた、と、耳を疑うような言葉に何が起きているのかピンと来なくて、車は立ち去り、数秒後、目の前から、真っ黒な津波が、トラックや、大木、人を押し寄せて流れて来ました。ほんの少し傾斜ある、自宅の前に居たから、水をかぶりながらも2階に逃げ切れたけど、立ち方向が、津波に背中を見せていたり、通りに出たままだったら、確実に流されていました。本当に恐ろしかったです。(宮城県名取市 40代女性)

・津波が2mから3mという情報をラジオで聞いたので、いつものことだと思い、ちょうど小学生の下校時だったので道に小学生がいらないか確認しようと弟と二人海側へ歩きました。実家がほんのすこし上にあつたため、津波に囲まれ孤立しましたが難を逃れました。もう少し潮位が高ければ祖父母弟共に死んでいました。弟は近所の方々と情報交換をしていたため、津波に追われ足を取られながらも長身と柔道部のため力があり、家のフェンスにしがみついで助かりました。(岩手県下閉伊郡山田町 未成年女性)